

事業内容

会合等

協議会			
平成20年度「高次脳機能障がい支援ネットワーク近畿ブロック連絡協議会」	11月27日	高次脳機能障がい支援ネットワーク近畿ブロック 主管課府県職員 政令指定市主管課職員 府県支援コーディネーター ----- 当事者・家族の会 計	33 ----- 14 ----- 47
連携調整委員会			
第1回大阪府高次脳機能障がい相談支援体制連携調整委員会	8月12日	委員19名(18名出席) 事務局13名	31
第2回大阪府高次脳機能障がい相談支援体制連携調整委員会	H22年2月16日	委員20名(14名出席) 事務局14名	28
ネットワーク会議			
豊能圏域地域ネットワーク会議	5月29日	圏域の医療機関・市町村・障がい者支援施設・相談支援事業所・教育・就労支援機関等	44
堺圏域地域ネットワーク会議	6月29日		43
北河内圏域地域ネットワーク会議	7月17日		43
大阪市圏域地域ネットワーク会議	9月2日		114
大阪府全体会議	9月17日		158
三島圏域地域ネットワーク会議	10月9日		38
中河内圏域地域ネットワーク会議	H22年1月20日		39
泉州圏域地域ネットワーク会議	H22年3月25日		
ケース会議等			
出席者	日時	場所	市域
当事者・家族・就労支援センター職員・大阪府障がい者相談支援センター職員	6月19日	豊中障害者就業・生活支援センター	豊中市
市役所・羅針盤・豊中保健所・大阪府障がい者相談支援センター職員	7月29日	豊中市福祉会館	
当事者・家族・就労支援センター職員・大阪府障がい者相談支援センター職員	12月10日	豊中市障害者就業・生活支援センター	
当事者・家族・就労支援センター職員・大阪府障がい者相談支援センター職員	9月11日	枚方市障害者就業・生活支援センター	枚方市
当事者・家族・地域生活支援センター職員・大阪府障がい者相談支援センター職員	12月4日	地域生活支援センター みのり	交野市
家族・急性期総合医療センターDr・MSW・OT 小学校担当教諭・大阪府障がい者相談支援センター職員	12月4日	大阪府障がい者自立相談支援センター	柏原市
当事者・家族・地域活動支援センター職員・大阪府障がい者相談支援センター職員	9月8日	岸和田市地域活動支援センター かけはし	岸和田市
当事者・家族・地域活動支援センター職員・大阪府障がい者相談支援センター職員	H22年1月14日	岸和田市地域活動支援センター かけはし	
当事者・家族・就労生活支援センター職員・大阪府障がい者相談支援センター職員	10月21日	泉州中障害者就業・生活支援センター	貝塚市
当事者 就労・生活支援センター職員・大阪府障がい者相談支援センター職員	8月19日	堺市障害者就業・生活支援センター	堺市
急性期総合医療センターDr・MSW・OT 小学校担当教諭・大阪府障がい者相談支援センター職員	12月11日	大阪府障がい者自立相談支援センター	大阪市
YMCA教諭・大阪府障がい者相談支援センター職員	9月10日	大阪YMCA	
当事者・家族・就労支援センター職員・大阪府障がい者相談支援センター職員	H22年2月2日	大阪市西部地域・就業支援センター	

事業内容

会合等

協力・出席した会合	日時	対象者	参加者数
研修会			
市町村障がい者福祉担当者研修会(新任)	5月8日	新任市町村障がい者福祉担当者	100
馬場記念病院スタッフ勉強会	7月24日	馬場記念病院リハスタッフMSW等	11
リハビリテーション合同研修会	9月10日	三島圏域内の施設に勤務するリハビリ関連職	100
第2回ピア大阪人権講座	9月19日	市民	70
第5回ぴあそーれ発勉強会	10月30日	松原市内障がい児者支援関係施設・機関等の職員	37
和泉市ジョブメイト養成講座	11月24日	受講希望者	6
民生委員協議会会長・副会長(指導者)研修会	11月24日	民生委員協議会会長・副会長(指導者)	48
北河内OTブロック研修会	11月26日	北河内ブロックの作業療法士	102
第7回泉州地区障がい者福祉担当者研究会	11月26日	泉州地区障がい者福祉担当者	14
平成21年度大阪身体障がい者地域リハビリテーション協議会	11月30日	市町村・福祉施設・関係機関職員	50
四條畷学園大学作業療法専攻特別講義	12月12日	四條畷学園大学作業療法専攻4年生	36
大阪府言語聴覚士会 2009年度第2回学術講演会	H22年2月28日	大阪府言語聴覚士会	
大阪市身体障がい者相談員研修会	H22年3月9日	大阪市身体障がい者相談員	
ケース会議			
出席者	日時	場所	市域
当事者・あーす・ワークボックス・大阪府立障がい者自立センター職員・大東市障害者生活支援センター職員・大阪府障がい者自立相談支援センター職員	4月22日	相談支援事業所 あーす	大東市
当事者・あーす・ワークボックス・大阪府立障がい者自立センター職員・大東市障害者生活支援センター職員・大阪府障がい者自立相談支援センター職員	9月30日	地域生活支援センター あーす	
家族・大東市障害者生活支援センター職員・四條畷保健所・大東市役所・大阪府障がい者自立相談支援センター職員	12月24日	大東市障害者生活支援センター	
大阪市・相談支援事業所職員	10月15日	大阪市北区役所	

広報	パンフレット	発行	配布先	配布数
	医療機関向け啓発パンフレット H19年3月作成	5万部	医療機関など	2000部
	府民向け啓発パンフレット H19年3月作成	10万部	府民 支援関係機関 医療機関など	3000部
調査	圏域別支援マップ作成	作成時期	配布先	配布部数
	豊能圏域	9月	協力支援機関・協力医療 機関・市町村・家族会等	300
	泉州圏域	9月		300
	三島圏域	10月		100
	中河内圏域	H22年1月		100
	北河内圏域	H22年2月		100
	南河内圏域	H22年2月		100
事業内容	大阪府立急性期・総合医療センター障がい者医療・リハビリテーション医療部門			
	評価バッテリー		リハの種類	
	<p>認知リハの開始及び終了時に以下の検査を実施して、経時的变化を評価する。</p> <p>評価： <知能検査>WAIS-R、WISC <記憶>WMS-R、日本版リバーミード行動記憶検査(RBMT)・三宅式記名力検査・REY複雑図形検査。 <注意>SymbolDigitModalitiesTest(SDMT)・かなひろい検査・トレイルメイキングテスト(TMT)・PacedAuditorySerialAdditionTest(PASAT) <遂行機能>慶応式ウイスコンシンカード分類検査(KWCST)。 <その他>高次脳機能障がい質問表</p>		<p>認知リハ:直接刺激法を中心とし、記憶・注意・遂行機能などの反復練習課題を提供する。</p> <p>課題は比較的短時間で反復実施可能な思考型作業(紙筆プリント・ゲーム・創作)課題が中心で、難易度の段階付けが可能なものを用いている。</p> <p>毎回必ず宿題を提供し、家でも自主訓練を行う環境を整えている。</p> <p>また、必要に応じ、メモリーノートの使用練習を併せて行っている。</p> <p>予約制、個別対応、週2回、1回1時間、3ヶ月間を1クールとする。</p>	
	大阪府立障がい者自立センター			
	評価バッテリー			リハの種類
診断	<p>※入所前にMMSEとHDS-Rを行う。</p> <p>心理 (全員)COGNISTAT RBMT (必要に応じて)WAIS-III BADS WMS-R 臨床高次脳機能評価(注:STも行うことあり) ※高次脳機能障がいに関しては性格面の変化や情緒面にも課題があるため、以下の性格検査等も行う。 (全員)TEGⅡ バウム・テスト (必要に応じて)POMS SDS</p> <p>OT (全員)TMT PASAT かなひろいテスト 三宅式記銘力検査 REY図形テスト 火事の話 四則計算 KWCST 線分二等分検査</p> <p>ST (全員)SLTA コース立法体組み合わせ検査 (必要に応じて)ベントン視覚記銘テスト 標準高次視知覚検査 抽象語理解力検査 標準高次動作検査 臨床高次脳機能評価(注:心理も行うことあり)</p>			生活リハ (生活訓練プログラム) 認知リハ

相談支援状況(障がい者医療・リハビリテーションセンター)

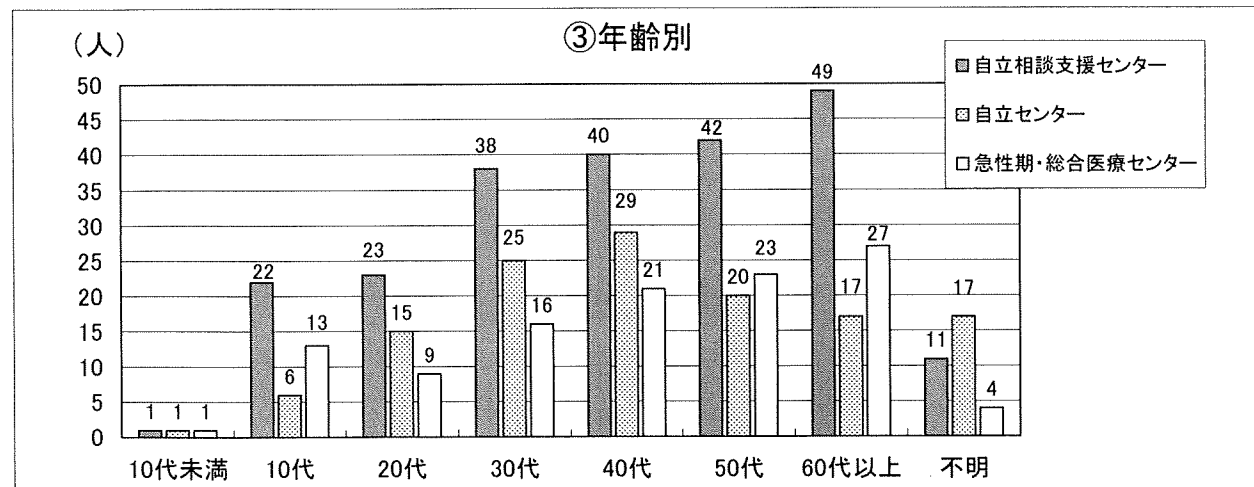
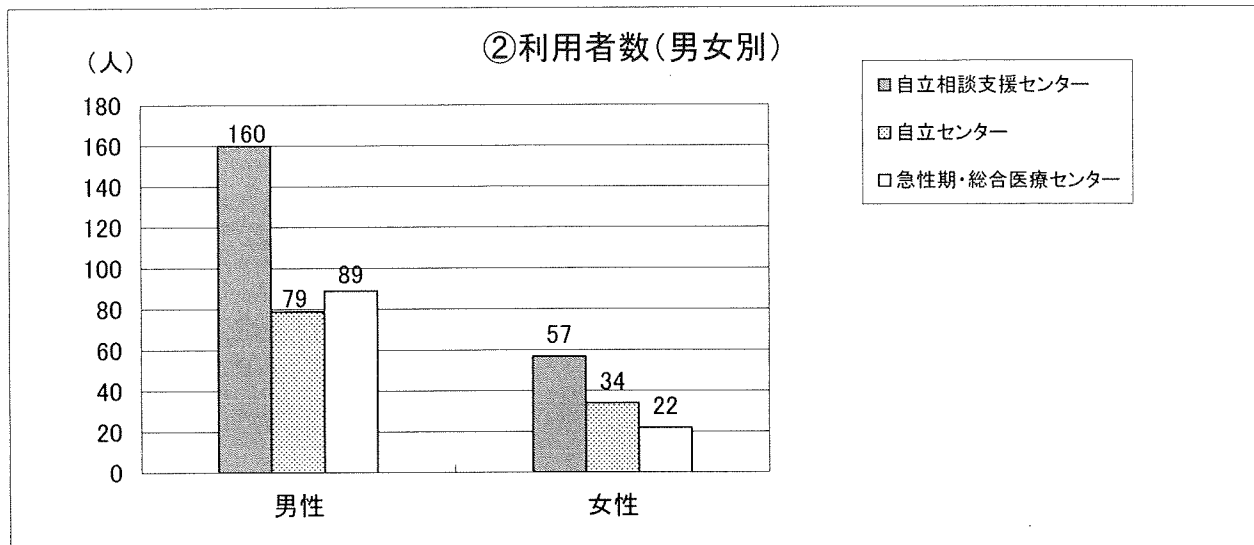
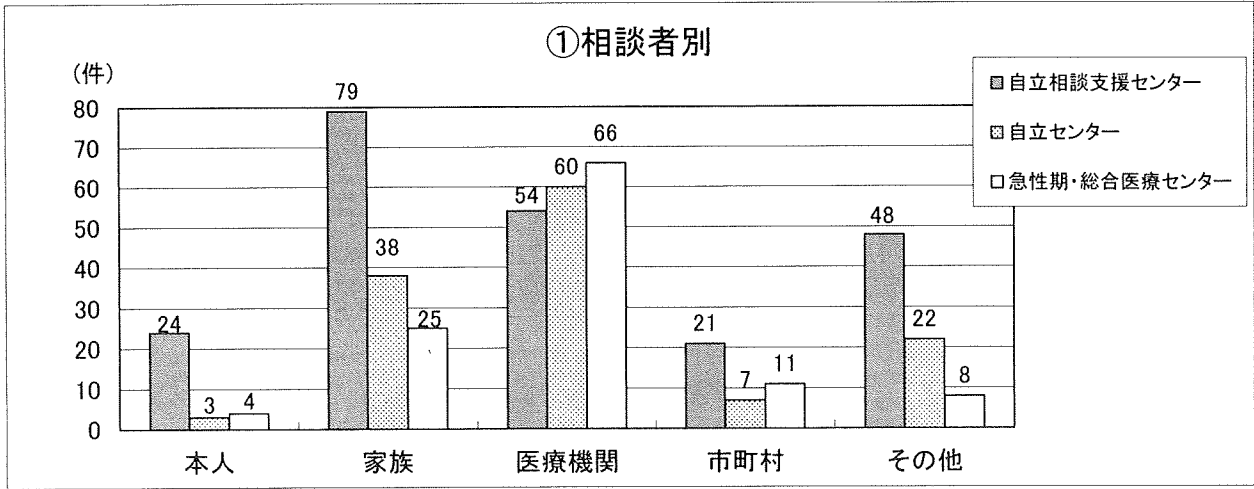
総数 470 件 平成21年4月～平成21年12月

226 件 大阪府障がい者自立相談支援センター

130 件 大阪府立障がい者自立センター

114 件 大阪府立急性期・総合医療センター

※ 件数は実人数で重複なし



相談支援状況(障がい者医療・リハビリテーションセンター)

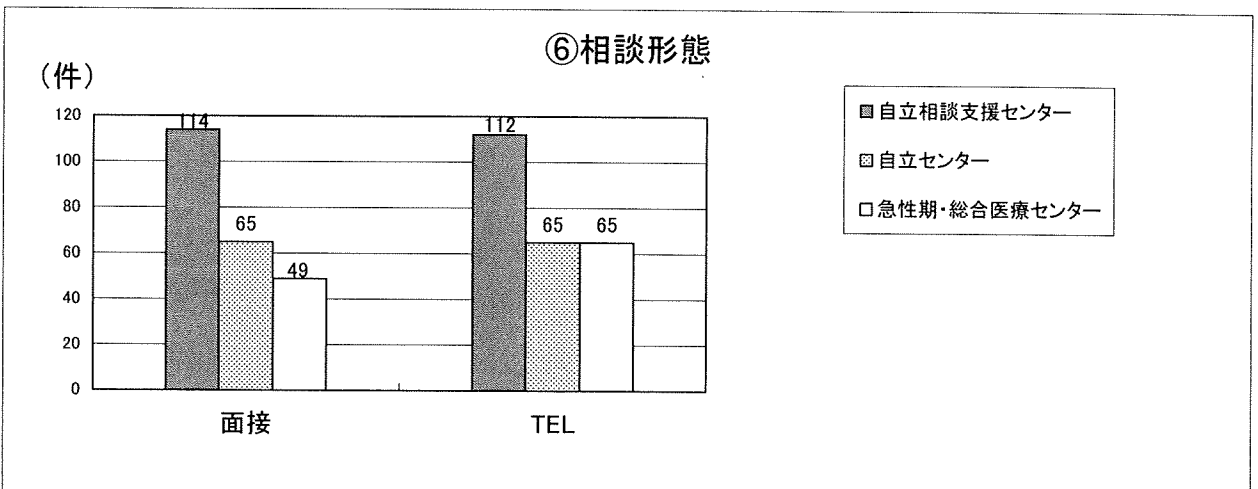
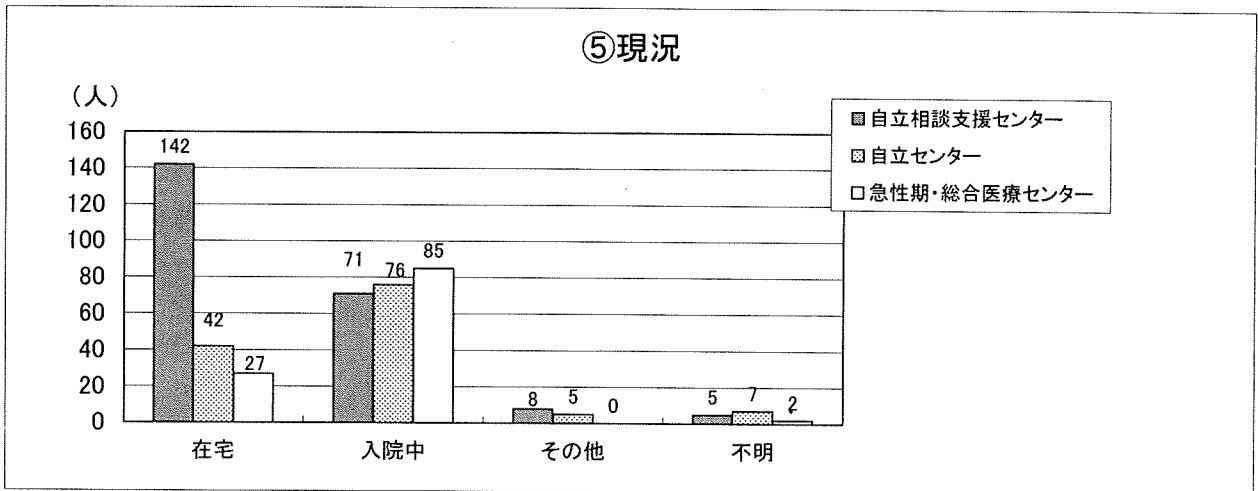
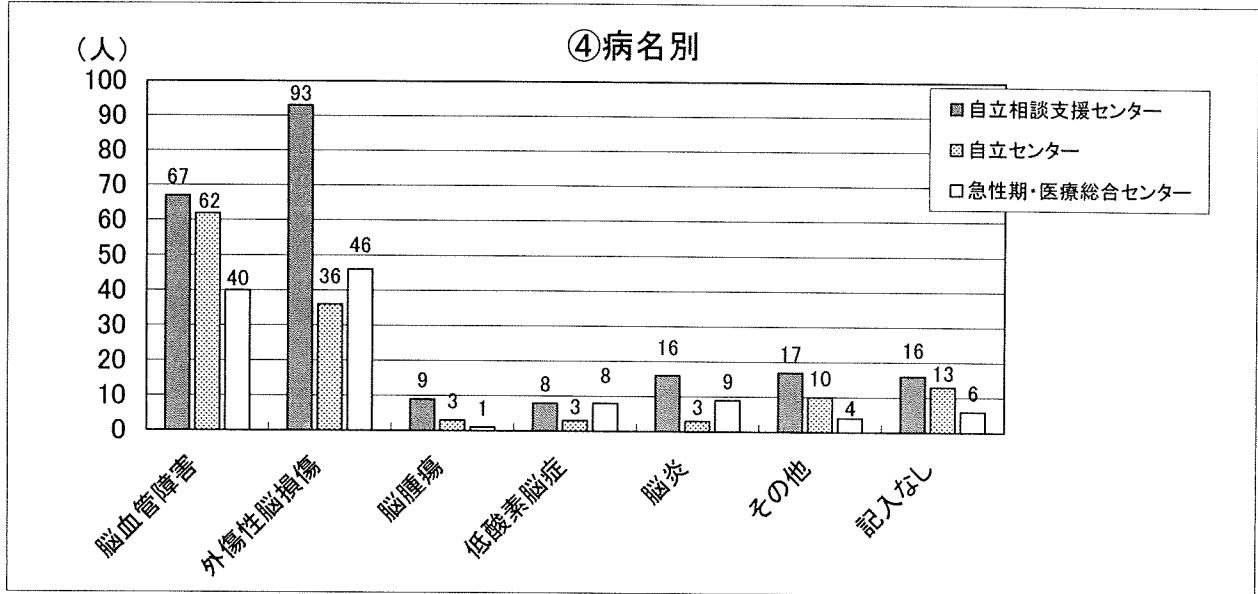
総数 470 件 平成21年4月～平成21年12月

226 件 大阪府障がい者自立相談支援センター

130 件 大阪府立障がい者自立センター

114 件 大阪府立急性期・総合医療センター

※ 件数は実人数で重複なし



相談支援状況(障がい者医療・リハビリテーションセンター)

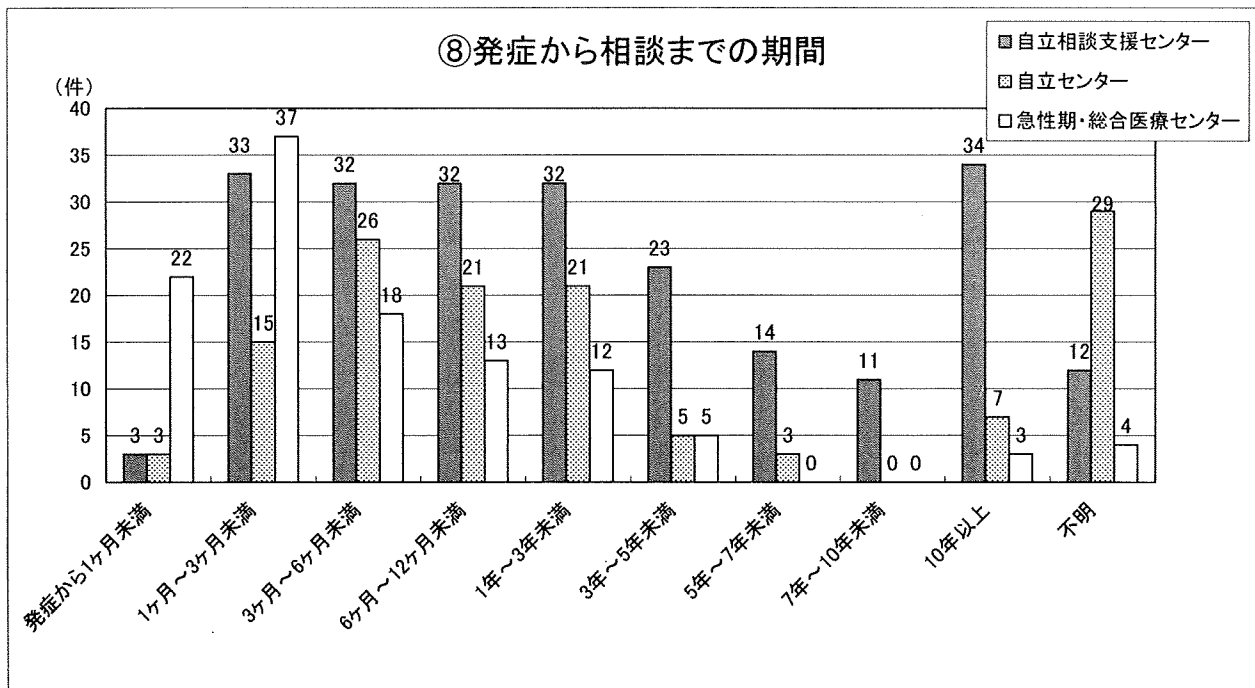
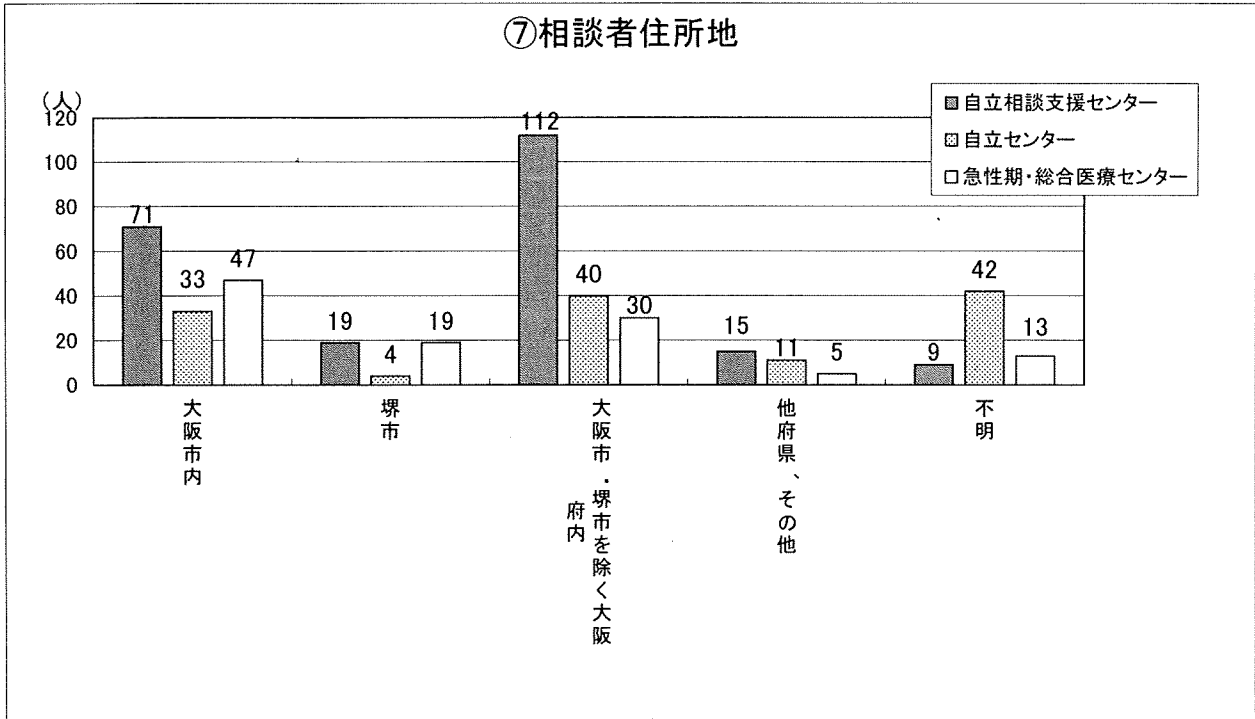
総数 470 件 平成21年4月～平成21年12月

226 件 大阪府障がい者自立相談支援センター

130 件 大阪府立障がい者自立センター

114 件 大阪府立急性期・総合医療センター

※ 件数は実人数で重複なし



相談支援状況(障がい者医療・リハビリテーションセンター)

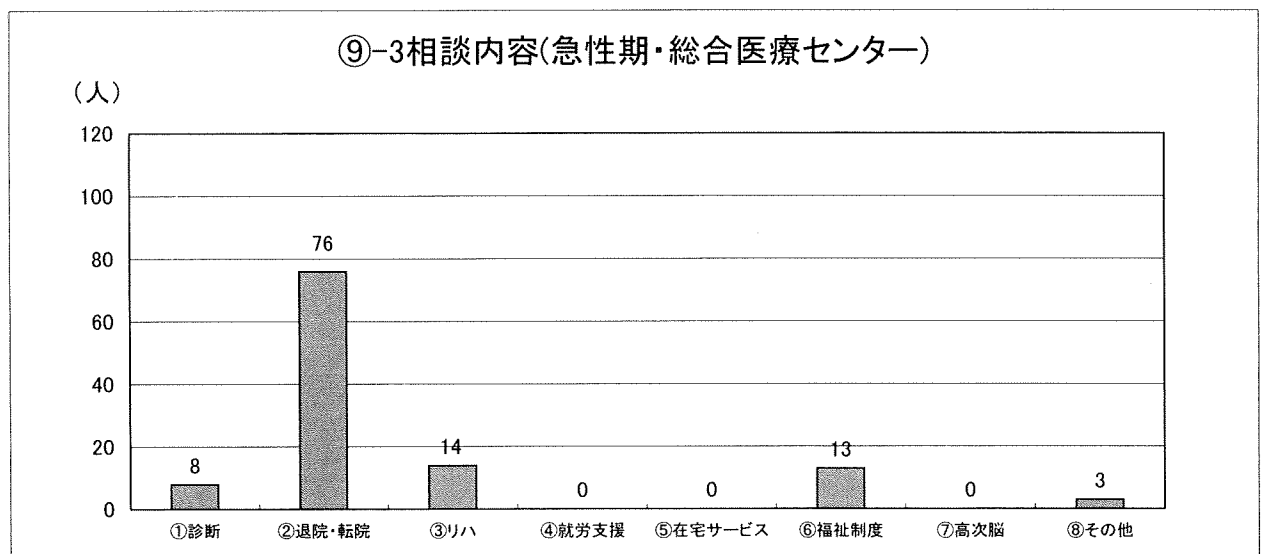
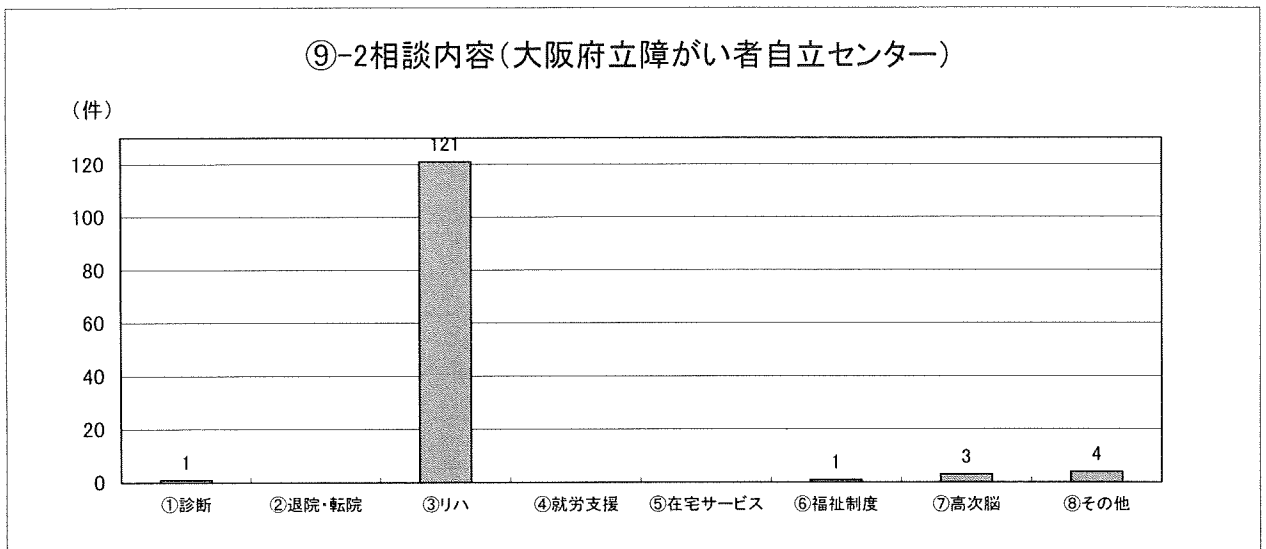
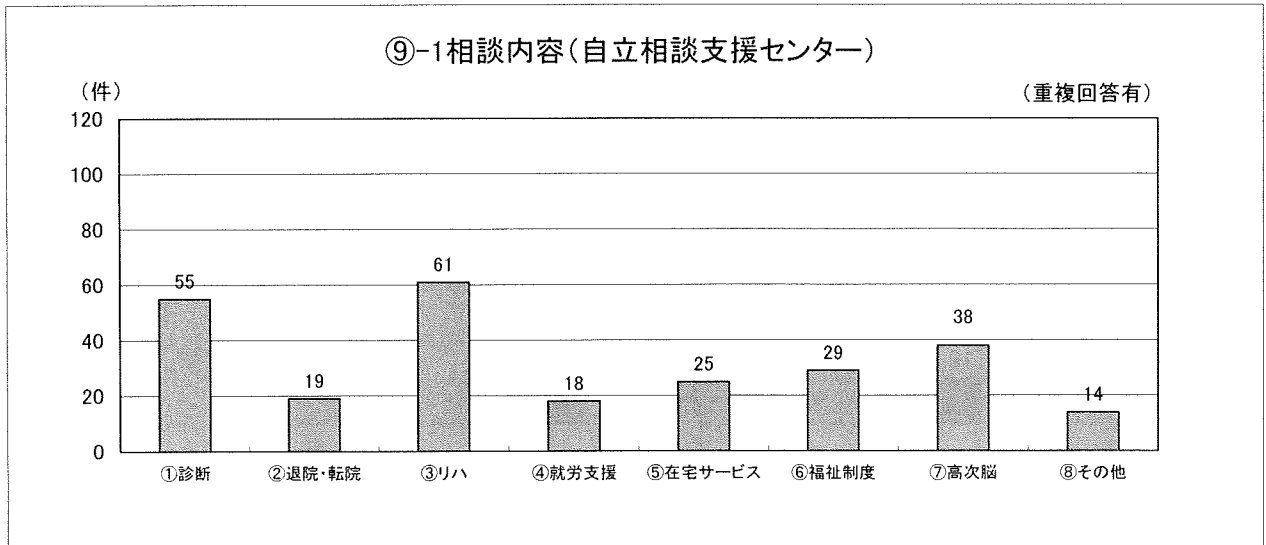
総数 470 件 平成21年4月～平成21年12月

226 件 大阪府障がい者自立相談支援センター

130 件 大阪府立障がい者自立センター

114 件 大阪府立急性期・総合医療センター

※ 件数は実人数で重複なし



市町村別相談者数(障がい者医療・リハビリテーションセンター)

総数 470件 平成21年4月～平成21年12月

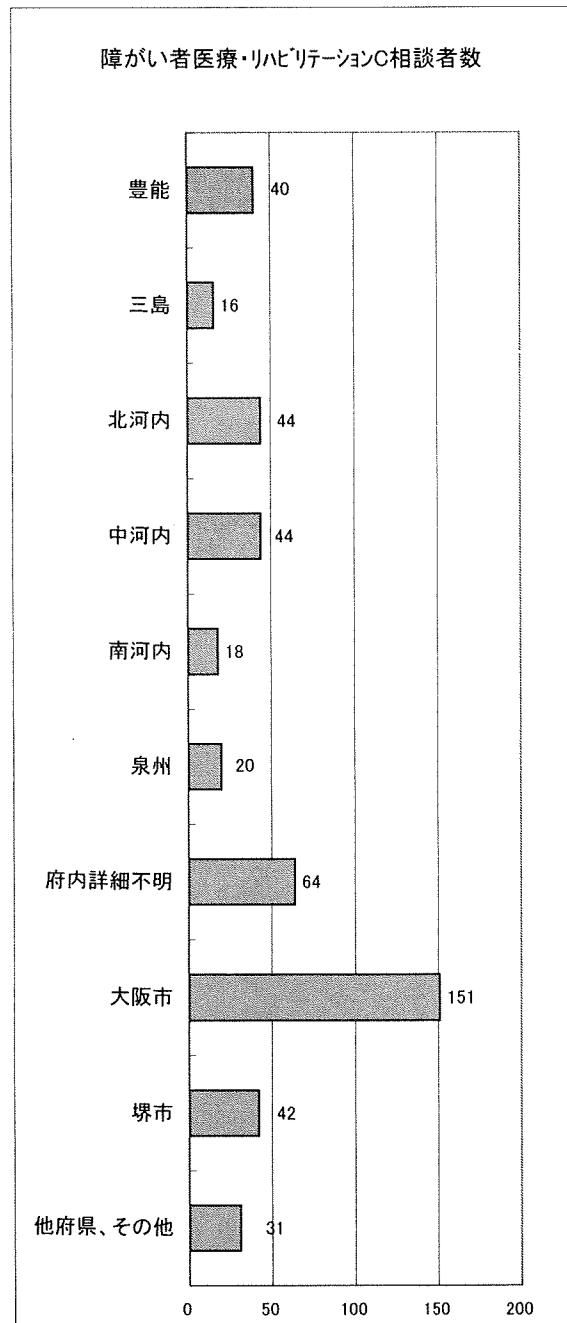
226 件 大阪府障がい者自立相談支援センター

130 件 大阪府立障がい者自立センター

114 件 大阪府立急性期・総合医療センター

※ 件数は実人数で重複なし

圏域	市町村	自立相談支援センター	自立センター	急性期・総合医療センター
豊能(6)	豊中	9	1	4
	池田	4		
	吹田	10	2	2
	箕面	4	1	
	豊野町	1		
	能勢町	2		
	計	30	4	6
三島(4)	高槻市	5	6	1
	茨木市	3	1	
	摂津市			
	島本町			
	計	8	7	1
北河内(7)	守口市	5	1	1
	門真市	2	1	2
	四条畷市	2	1	
	枚方市	10	3	2
	寝屋川市	5		1
	大東市	4	1	1
	交野市	2		
	計	30	7	7
中河内(3)	八尾市	15	4	3
	柏原市	2		1
	東大阪市	9	5	5
	計	26	9	9
南河内(9)	富田林	1	1	
	河内長野市	1	1	
	松原市	2	2	2
	羽曳野市	2	3	1
	藤井寺市			
	大阪狭山市	1		
	太子町			
	河南町			1
千早赤阪村				
	計	7	7	4
泉州(12)	岸和田市	3	1	
	泉大津市	2	2	2
	貝塚市			
	泉佐野市			
	和泉市			
	高石市	2	1	1
	泉南市	1		
	阪南市	2	1	
	忠岡町	1	1	
	熊取町			
	田尻町			
	岬町			
	計	11	6	3
府内詳細不明		9	42	13
大阪府内合計		112	40	30
大阪市		71	33	47
堺市		19	4	19
他府県、その他		15	11	5
全体合計		226	130	114

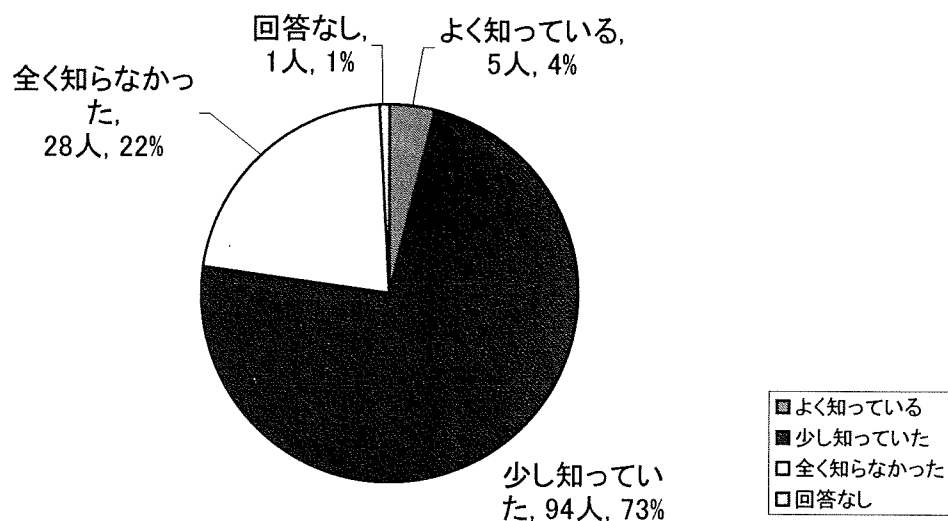


学校における高次脳機能障がい者の就学支援に関する研修会 アンケート調査結果

Q1. 高次脳機能障がいについて、本日の研修を受けるまで知識はありましたか。

よく知っている	5
少し知っていた	94
全く知らなかった	28
回答なし	1
計	128 (人)

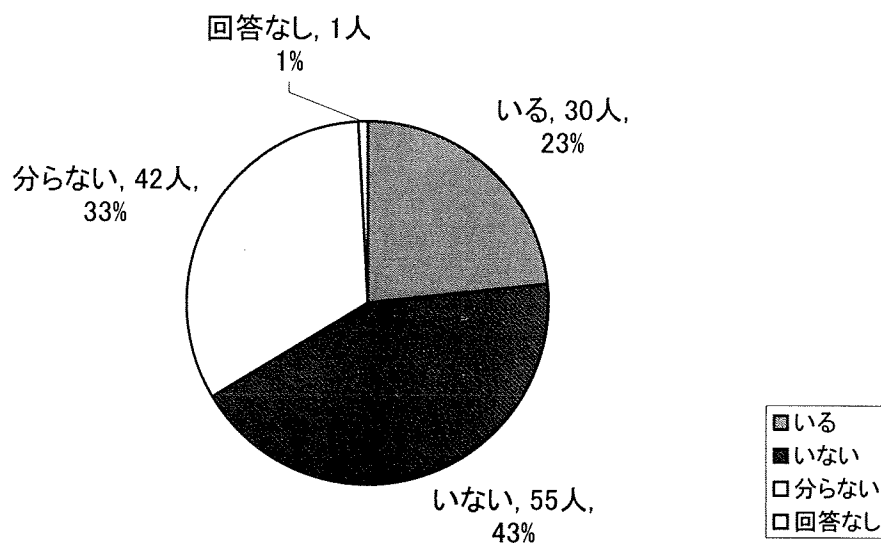
高次脳機能障がいについての知識



Q2. 皆さんの勤務先(学校)に、高次脳機能障がいと診断された、またはその疑いのある(以下「高次脳機能障がいと診断された」という。)児童、生徒はいますか。

いる	30
いない	55
分らない	42
回答なし	1
計	128 (人)

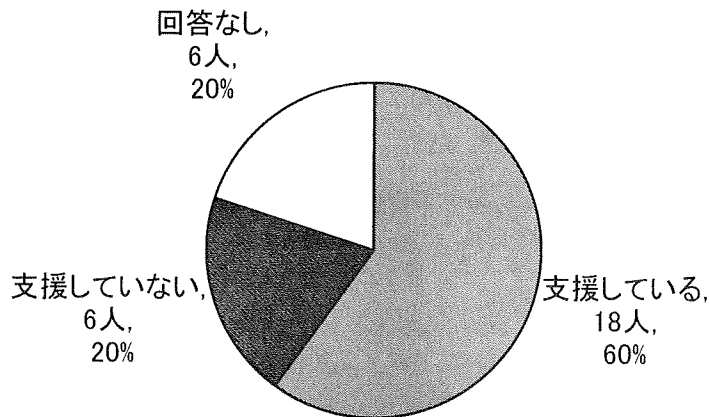
高次脳機能障がいと診断された児童、生徒が



Q3. 2で高次脳機能障がいと診断された児童、生徒がい「ア. いる」と答えたか方にお尋ねします。学校として、何らかの支援をしていますか。

支援している	18
支援していない	6
回答なし	6
計	30 (人)

診断された児童、生徒に何らかの



支援している
 支援していない
 回答なし

「支援している」と答えた方の支援の具体的な内容

学校ではなく、訓練施設スタッフです。
 ○訓練の他、学校訪問等行っています。○小さな市なので現場の先生・保育師が見学に来てくれます。

2歳で交通事故。視覚障害、左半身に少し麻痺が残る児童がいます。5年生までは通常学級ですごしてきましたが、6年生から支援学級に入級しました。今、その子を見て、視覚障害、左半身の障がいでだけでなく、記憶障がいもあるのではないかと今様子を見ているところです。

1年で支援学級に在籍、1日3～4時間支援学級で学習。

支援学級で対応
 支援学級で対応
 支援学級に在籍
 支援学級に在籍している
 支援学級に入級
 支援学級に入っている。算数など個人の能力に合わせたやり方でしている。できることは普通学級です。

特別支援学級と通常学級両面からのバックアップ
 特別支援学級入級、指導支援
 介助(支援)ボランティアをお願いしている
 主に視覚支援
 学校との連携(巡回相談を実施)
 以前していた。学年主任として。
 支援の必要を感じ働きかけているところ
 注意障がいへの対応、記憶障がいへの対応
 特別支援学級に在籍予定

Q4. 3で「ア. 支援している」と答えた方にお尋ねします。支援している中で、どのようなことでお困りですか。あるいは、どのようなことが課題となっていますか。

本人のその日の状況把握と何を学ばせるか？
ひとつのことがしたくなると、そのことをするまで気になってしかたがない。(犬を飼いたい。作りたい物)
職員の理解が十分とは言えない。支援をおこなう時間が十分とは言えない。 周りの生徒に理解されにくい
周りからはとても低レベルに見られてしまうが、そう思えない言動が時に見られる。それを見ない多くの人達に伝える術がない。
本人に自信をつけさせてやること 自信をつけるということ(できるのに、繰り返しやっているが自信がない。 工科高校なので、その生徒個別の授業展開が出来ず、生徒に合わせた生徒の能力向上や評価(成績)が難しい
支援のしかた ①中途障がいの場合、保護者の気持ち期待が大きい為対応しきれない時がある。 ②医療的ケアが必要な児も増え学校ではそちらに力をそそぐと軽度の子は学校では手が回らない気がする。
勤務先が肢体不自由校なので、物理的な障がい、てんかん等、分りやすい障がいに 対しては親の理解を得られるが、そうではない部分については、「なかなか目をむけて もらえない。
父母の理解のない子協力してもらえない。 職員数が足りない。
母親の障がい受容。学校と家庭での様子の違い。 自分自身は養護教諭なので、直接支援しているわけではないので、すいませんがわ かりません。

Q5. 3で「イ. 支援していない」と答えた方にお尋ねします。
支援していない理由は何ですか。

支援の仕方が分らない	2
家族に任せている	1
その他	3
計	6

「その他」と答えた方の具体的な内容 症状が軽く以前とあまり変わらないので、他の生徒に手がかり、そこまで手が回ら ない。 高次脳機能障がい養護学級の対象児だと考えていなかった。 教員と保護者が話し合う機会を多くとっている

Q6. 高次脳機能障がいと診断された児童、生徒を学校で受け入れるに際し、何か配慮されたことはありますか。

医師に状況を聞きに行った
現場の教師が正しい知識をもち周りの子どもとの関係に配慮する。
校区の精神科リハへの紹介と定期的なケース会議の開催
主治医が話を聞かせてくれる予定
医療、訓練との密接な連携
けいれん等いつあるかわからないので介助員が付いている。
今で言う支援学級の先生が資料など作られ、校内で研修を多く持った。
特にないが、全ての教職員が高次脳機能障がいとはどういうものなのかを理解の上、
生徒・保護者の立場にできるだけたちお互いに協力しながら育て成長させられるよう
努力する。
特になし
特になし。保護者とよく話をして進めている。
ない
まだそのような事がないのでありません。
学校生活をいかに継続できるか？(又は、するのか?)
基本的な生活習慣
健常の時との違いを、どう子ども達に説明するか？進路選択
生徒の必要としている支援を正しく認識し、学校全体で支援できる体制をつくること
通常の生徒であった子が脳症により後遺症でなったので現場の教師にとってもどうす
れば・・・という戸惑いもある。
入学後に分った
やはり学校(高校)に知らせるべきかどうか悩んでいます。

Q7. 高次脳機能障がいと診断された児童、生徒に対して、今後、どのような支援が必要ですか。

医療、訓練との密接な連携
医療と教育の連携
医療と連携し子どもの状態像をしっかりとつかみ、手立てを考えていく個別の指導計画を立てて支援する。
学校・医療機関の連携。情報を共有し、実績を蓄積する。
学校と医療機関との直接的な連携
軽度障害の他、高次脳機能障がいも含め、個別の支援が必要で多くの人の対応が大切だと思う。交通事故その他の事故も増え高次脳機能障がいも多くなると考える。医療との連携がいる
学習面や学校生活での支援、その子に合ったスケジュール
学校としては、特に細かくその都度個別指導もしていかなければと思う・・・時間をかけて面倒見よく。

支援プログラム(カリキュラム)の立案等検討
その子に合わせたプログラムを用意して対応すること(専門家との連携)そのプログラム作成のためには、児童理解がまず必要となってくる。今、何を伸ばして(支援)あげられるかを考えた時大人になった時、どのような力が必要かをよく考えて支援したい。

ものごとを記憶しにくかったり、タイムスケジュールの把握や自分の役割がわからないことについて、視覚的にわかりやすいものが必要なんだと思いました。TEACCHプログラムを参考にしてみたいと思います。

わかりやすい目標を設定する。個別に応じたプログラムを作成する。
その子の実態をつかみ、それに応じたプログラムによる支援。医療との連携。
1つの発達検査だけでは、とらえきれない場合もあるとのこと。心理士からの助言や外部の専門家との連携の必要を感じています。

①この障がいに対する知識を教職員が把握する。
以前、支援学級に在籍していた生徒が知的障がい、もしかしたら、高次脳機能かも？というケースがありました。まだ、あまり知られていないだろうと思います。まず理解からと思います。発達障がいの対応方法を十分に知って活用することだと思いま

関わる教員、職員の理解啓発
教師の人的配置と訓練の為のアイテム、我市では、障がい生徒の専門的教師がほとんどいない。一般の教師がにわかに面どうを見ているのが実状です。
教職員の高次脳機能障がいに対する認知が一番、それができれば個々のケースについては試行錯誤しながらでも進むように思う
共通認識(職員間)理解し指導に当たる。
高次脳機能障がいの理解⇒教員、友人、保護者。人的な支援体制の確立(高次脳機能障がい理解のある職?)

他の子どもや保護者の理解が必要。そのために各学校での勉強会、研修会が開かれるべきである。
まず周りが高次脳機能障がいについて知ること。
周りの児童への配慮、児童理解
まわりの理解(あるがまますを正しく知ってもらう)。それを受け入れてもらった後の支援なら、どんなものでも役に立つと思います。

まわりの理解と知識が必要と思いました。
子どもの頭をなでてあげた時とか「アレっ？」と頭のへこみやゆがみにびっくりすることがあります。そのような事実から、この研修に興味をいただき、より、専門的に知りたいと思いました。
最後に質問された先生に同感します。医療、教育の支援をお願いいたします。

障がいの内容を周囲が正しく認識するとともに専門的な医療機関と連携をとりながら教育にあたる必要があると思います。

よくわかりませんが専門機関、保護者、学校の連携協力をうまくやっていくことではないかと思いますが。

…その子、その子でいろいろあると思います。サポートをきちんとできる現場であることが必要だと思います。

今日のお話で支援教育の視点で取組もうと思う。
高校入試の教育相談等で、障がい名や症状等は入試に直接関係しない限りなかなか早い段階で知ることはできない。(中学からの申し送りはほとんど無い)入学後に担任、教科担当、養護教諭の気付きから支援について考えていくことになるので、校種間の連絡がうまく機能することが必要であると思います。

支援員などを配置する。
聴力にも問題があったので遅れの原因がよくわかっていない。どう支援していけばいいのか探しているところです。

常にその発達や困り事の相談できる所がないこと。誰に聞きにいけばいいのか。具体策は手探り状態です。

当事者が自立して社会生活ができるような支援が必要だと思います。そのための道すじを共にたどり取り組みをすすめる。

特別支援の必要な児童として、あたりまえの支援

乳幼児⇒保育所・幼稚園⇒小学校⇒中学校⇒高校(ここまでは、支援シートなど共通の申し送りを教育委員会リードで作る。

高校⇒大学⇒会社(この先はどうする?)

保護者と連携して生徒支援ができるようなアドバイザーがいると助かります

本校のその児童は今6年生です。あと数ヶ月で中学校へ行ってしまう。その保護者や児童に対してどのような支援をしていったらいいのか教えていただきたいです。

感想

高校の場合でも、外傷によるものがあると思いました。たとえば、スポーツや登校中のケガで頭部を打った場合軽い意識などを注意してみていく必要があると感じました。他の先生方に伝えていけたらと思いました。

話が分りやすかったです。アメリカに比べて日本の医学の遅れを知り、医療にもっと費用をかけるべきだと思いました。

2-U: 発達障がいと思われる生徒のなかにはいるとは思いますが……。案内文と実際の講義内容に大きな違いがありました。「交通事故の後遺症」は幅広く重度は傾眠状態、発話なし、四肢マヒなどがあります。案内文を具体的に書いて頂きますようお願いいたします。今日の内容であればある程度知っていることですので、参加しなかったと思います。重度の後遺症(医療的ケアを有する)をもつ高次脳機能障がいのお話を期待していました。

幼い頃交通事故を経験している生徒は多数います。現在該当する児童はいませんが、今後出会う可能性はあるのでとてもよい研修になりました。ありがとうございました。

今年からです。勉強になりました、ありがとうございました。本2冊を買います。発達障がいの可能性や支援が必要な児童のアセスメントの中で保護者の方と面談することがありますがその際に後天的の可能性があった場合は医療機関を進めた方が良いでしょうか？発達障がい医療機関に行ったり、診断を出すことを保護者は受け付けないことが多いです。

勉強になりました。ありがとうございました。本日のお話たいへん参考になりました。ありがとうございました。私事ですが息子が6年前事故で頭部を強打し、ICUに1週間入院し、外傷性くも膜下出血の後「高次脳機能障がい」を大変心配しました。今はその心配もないのですが、今後学校での生徒達のけがの後にも心配されますし、とても症状などに気になっていましたので、参加させていただきました。ありがとうございました。

別紙 (G. 研究発表)

論文

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
藤岡真紀、溝口秀男、杉山綾子、出谷京子、森本幸二、塩屋博史、渡邊学、鈴木恒彦、久保範明、中森靖	三次救命救急センターにおける急性期リハビリテーション	大阪府立急性期・総合医療センター医学雑誌	31	21-24	2008
出谷京子、山中緑、藤岡真紀、杉山綾子、岸本昌子、渡邊学、鈴木恒彦、中森靖、毛利智好、松田宏樹	脳外傷により高次脳機能障害を呈した10歳児のリハビリテーションの一例	大阪府立急性期・総合医療センター医学雑誌	31	61-63	2008

学会

氏名	テーマ	学会名	場所	日時
山中緑、中森靖、松田宏樹、毛利智好、尾崎純子、木村亮、松永秀典、	病院外心肺停止(CPA)蘇生後に十分機能回復した症例にみられた高次脳機能障害	第32回日本高次脳機能障害学会	松山市	2008
山中緑、木村亮、松永秀典、柳田誠、松田宏樹、毛利智好、中森靖、	重度低酸素脳症症例に対するリハビリテーションと転帰	第32回日本高次脳機能障害学会	松山市	2008
出谷京子、山中緑、藤岡真紀、杉山綾子、中森靖、毛利智好、松田宏樹、	頭部外傷により高次脳機能障害を呈した10歳児の1症例	第32回日本高次脳機能障害学会	松山市	2008
藤岡真紀、溝口秀男、杉山綾子、出谷京子、森本幸二、塩屋博史、渡邊学、中森靖、久保範明、鈴木恒彦、	3次救命救急センターにおける急性期リハビリテーションの早期介入	リハビリテーション・ケア合同研究大会 福井2008	福井	2008
亀井 大作、出谷 京子、坂之上 豊子、渡邊 学	80代前半の高齢者頭部外傷が自宅退院にいたった一例	大阪府作業療法士会 現職者共通研修(事例報告)	大阪市	2009
池埜弥生	重度障害者用意思伝達装置の判定状況と適応状況について	第43回日本作業療法学会	郡山市	2009
森本幸二	脳腫瘍により視覚異常を呈した症例	大阪リハビリテーション・薬物研究会	大阪市	2009
塩屋博史、大谷直寛	除皮質硬直様の不動肢位から短期間で自発運動とともに不随意運動が著明となった蘇生後脳症の1症例	大阪リハビリテーション・薬物研究会	大阪市	2009
亀井大作、渡邊 学	重度の失算を呈した頭部外傷の一例	第25回大阪府作業療法学会誌 P37-38	大阪市	2009
藤岡真紀、杉山綾子、山中緑、渡邊学 他	頭部外傷患者の認知・行動抑制の低下に対する環境設定の効果	第33回日本高次脳機能障害学会 抄録集 P139	札幌市	2009

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
（分担）研究報告書

高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究

研究分担者 永廣信治 徳島大学脳神経外科教授

研究要旨

四国ブロックでは、四県すべてに中核支援施設と支援コーディネーターが指定され相談件数も徐々に増加、市町村・保健所などでの研修・広報活動を定期的に行い、当事者・家族会も活発に活動しはじめ基礎は構築できたものの、地域における社会生活参加のためのネットワークが十分ではないため、更に啓蒙活動を継続し、支援体制を充実させるとともに、研究成果を公開、発表していく予定である。

A. 研究目的

平成20年度には、四国全県において中核支援施設と支援コーディネーターが確定、すべての県で当事者・家族の会が発足し、機関ネットワークと人的ネットワークの基礎が構築できた。さらに地域社会生活への参加に関する支援体制を充実させるため、現状調査・関係機関への啓蒙活動を行うとともに、研究成果を公開、発表する。

B. 研究方法

- 1) 四国各県において、連絡協議会や高次脳機能障害講習会・研修会の活動を継続する。
- 2) 支援実態調査：各県の中核施設や関連協力施設での相談件数を調査する。
- 3) 各県の支援機関・自治体・家族会の活動状況調査。

（倫理面への配慮）

相談件数、活動状況調査は個人の情報を登録・公開することはないため、倫理面について問題はない。

C. 研究結果

各県において講習会・研修会（表1）、委員会等（表2）を開催し、当事者・支援機関・施設関係者等への啓蒙を図るとともに各県における相談件数実態調査（表3）を行い、地域社会生活参加の支援体制の充実を図るための活動内容等についての検討を継続している。

また、研究成果をまとめ、学会で発表すると共に、論文として発表するよう準備している。

各県コーディネーターより支援実績が報告された（各県支援実績参照）。

D. 考察

実態調査によると相談件数は着実に増加し、講演会・研修会等による啓蒙活動を継続的に行うことにより、支援施設の掘り起こしが進み、参加施設数も増加している。受け入れ施設・支援施設等への研修会も定着しつつあり、研究成果は徐々に上がっていると考えられるものの、就学や就労等の社会生活復帰に対する支援体制は十分とは言えず、さらなる体制作りが必要と思われる。

E. 結論

就学・就労等の社会生活復帰に対する支援体制は未だ十分とは言えないため、学校関係者・就労支援施設関係者・当事者・家族等へのさらなる啓蒙のため、講演会・研修会を定期的に行い、研究成果を学会や雑誌に投稿、ホームページに掲載する等による方法により公開していき、同時に財政基盤の構築を図る活動を行う必要があると考えられる。

F. 健康危険情報

該当無し

G. 研究発表

1. 論文発表

該当無し

2. 学会発表

高次脳機能障害支援ネットワークの現状について一徳島県における2年間の試み一、中村和己他3名、第10回日本言語聴覚士協会総会、2009年6月13日、倉敷市

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し

表1 2009年度四国ブロック講習会・研修会開催一覧

県名	開催日	会の名称	開催地	参加者数
愛媛県	2009. 11. 29	愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関講習会 (支援拠点機関主催)	松山市	200
	2009. 12. 6	高次脳機能障害リハビリテーション講習会 (家族会主催)	松山市	200
	2010. 3. 3	高次脳機能障害支援研修会 (県主催)	松山市	200
香川県	2009. 8. 7	高次脳機能障害支援関係職員研修会「中讃地区研修会」	丸亀市	29
	2009. 9. 27	高次脳機能障害支援関係職員研修会「東讃地区研修会」	さぬき市	9
	2009. 10. 7	高次脳機能障害支援関係職員研修会「西讃地区研修会」	観音寺市	18
	2009. 11. 17	(社)日本損害保険協会リハビリテーション講習会	高松市	227
	2010. 2. 6	高次脳機能障害講演会 (予定)	高松市	
高知県	2009. 11. 7	高知脳外傷リハビリテーション講習会	高知市	140
	2010. 2. 13	専門職向け講演会 (予定)	香南市	
徳島県	2009. 7. 25	四国労働金庫社会貢献活動助成制度による講演会	徳島市	120
	2009. 9. 17	徳島県精神保健福祉センター研修会(専門研修)	徳島市	71
	2009. 10. 15	徳島保健所研修会	徳島市	40
	2009. 11. 8	(社)日本損害保険協会リハビリテーション講習会	徳島市	170
	2009. 11. 11	美波保健所パネル展	美波町	40
	2009. 11. 13	美馬保健所研修会	美馬市	32
	2009. 11. 24	南部 I 自立支援協議会サービス調整会議 勉強会	阿南市	33
	2009. 12. 23	美波保健所パネル展	牟岐町	80
	2009. 12. 24	美波保健所研修会	牟岐町	17
	2010. 1. 13	吉野川保健所研修会	吉野川市	19
	2010. 1. 21	阿南保健所研修会	阿南市	100
	2010. 1. 24	高次脳機能障害支援講演会・シンポジウム	徳島市	90
	2010. 1. 31	三好保健所研修会(予定)	東みよし町	9

表2 2009年度四国ブロック委員会等開催一覧

県名	開催日	会の名称	開催地	参加者数
四国合同	2010. 1. 24	四国ブロック担当者連絡協議会	徳島市	36
愛媛県	2009. 8. 10	平成 21 年度第 1 回 愛媛県高次脳機能障害支援連絡協議会	松山市	32
	2010. 3. 17	平成 21 年度第 2 回 愛媛県高次脳機能障害支援連絡協議会	松山市	
香川県	2009. 12. 7	香川大学病院との連絡会	木田郡	12
	2010. 1. 25	香川県高次脳機能障害支援連絡協議会	高松市	14
高知県	2009. 8. 6	第 1 回高次脳機能障害支援委員会	高知市	17
	2009. 12. 7	第 2 回高次脳機能障害支援委員会	高知市	18

表3 2009年度四国ブロック相談件数一覧

県名	期間	施設名	相談件数		リハ 訓練数
			来所・来院 相談数	電話 相談 数	
愛媛県	2009.4～2009.11	中核支援施設（松山リハビリテーション病院）	16	8	8
	2009.4～2009.11	相談支援協力機関6箇所	14	4	14
	2009.4～2009.11	県内保健所6箇所・精神保健福祉センター	3	50	
香川県	2009.4～2009.12	中核支援施設（かがわ総合リハビリテーションセンター）	242	137	
	2009.4～2009.12	サンガリハビリプラザ	52	33	35
高知県	2009.1～2009.12	中核支援施設（高知リハビリテーションセンター）	14	72	
徳島県	2009.4～2009.12	中核支援施設（徳島大学病院）	34	9	25
	2009.4～2009.12	徳島県保健所・精神保健福祉センター	9	7	0
	2009.4～2009.12	阿南共栄病院	22	49	
	2009.4～2009.12	医療法人 芳越会 ホウエツ病院	0	0	33
	2009.4～2009.12	三成会 水の都脳神経外科病院	7	2	1136
	2009.4～2009.12	鳴門山上病院	2	1	3

各県支援実績

【愛媛県】

支援拠点機関名

松山リハビリテーション病院

支援コーディネーター（職種）

木戸 保秀（医師、理事長）

当事者／家族からの直接相談のべ件数（21年度の集計可能な月まで）

電話 8 件
 来院／来所 16 件
 メール・書簡 0 件
 その他（訪問・出張・同行等）0 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（21年度の集計可能な月まで）

電話 3 件
 来院／来所 0 件
 メール・書簡 0 件
 その他（訪問・出張・同行等）0 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

支援拠点機関講習会（296名）（医療、保健、福祉関係者、行政関係者、家族会）

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

連絡協議会 連携ワーキンググループ会議、家族会定例会、高次脳えひめ研究会、